

ベネズエラ情勢（内政・外交：平成30年6月）

1 内政

（1）制憲議会議長の交代

19日、制憲議会は、副大統領に就任するため、制憲議会議長の職を離れたデルシー・ロドリゲスにかわり、ディオスダド・カベージョを新制憲議会議長として全会一致で選出した。同新議長は、マドゥーロ大統領とともに、ボリバル社会主義の建設に取り組み、国民が、制憲議会を誇りに感じるように全てのことを行うと述べた。野党連合MUDは、同新議長の任命を拒否した。20日、制憲議会は、ロドリゲス前制憲議会議長が担った真実・正義・平和委員会委員長の職務を、サーブ検事総長が引継ぐことを決定した。

（2）政治囚の釈放

1～3日、最高裁は、各地の刑事裁判所を通じて、司法手続き中や判決を受け、罪を犯したとされている市民の集団（セバージョス元サンクリストバル市長（大衆意志党）、カロ代理国会議員（大衆意志党）等の政治囚を含む2グループ約80名）に対し、刑法上の恩恵措置（条件付釈放等）を実施した。13日、最高裁は、さらに、43名に対し、刑法上の恩恵措置を施した。

（3）閣僚交代

ア 15日、マドゥーロ大統領は、12の閣僚の交代または新設を発表した。副大統領に、デルシー・ロドリゲス（前）制憲議会議長が就任し、エル・アイサミ（前）副大統領は、産業・国内生産大臣（新設）兼経済担当副大統領に就任した。国軍出身者の閣僚の比率は、43.75%から、26.47%に低下した。

イ 25日、マドゥーロ大統領は、保健大臣の交替を発表し、アルバラド新保健大臣が就任した。

（4）野党連合MUD

ア 10日、大衆意志党は、フロリド国会外交委員会委員長を解任し、後任として、フランシスコ・スクレ国会議員を任命した。6日の国会外交委員会による在外ベネズエラ人の国会に対する代表の任命に関し、同党の方針とフロリド前委員長の方針が合致しなかったのが解任の原因。

イ 29日、野党連合MUDは、コミュニケを発出し、政府に対し、オカリス前スクレ市長に対する会計検査院等を通じての執拗な攻撃を停止するように要求した。

（5）その他

ア 11日、ルイス保健大臣は、医薬品獲得のため、米州保健機構（PAHO）との協定の締結を発表したものの、ベネズエラにおける人道危機の存在を否定した。14日、当国訪問中のエティネPHAO事務総長は、ロペス保健大臣と会談した。

イ 16日未明、カラカス首都区エル・パライスのクラブで、何らかの騒動が発生し、催涙弾等が爆発し、未成年を含む17人が死亡した。

ウ 16日～17日、サパテロ・スペイン元首相が、当地を訪問した。野党連合MUDは、同元首相の再訪問に反発した。

2 外交

(1) OAS総会（於：ワシントン）

ア 4日、マドゥーロ大統領は、今回が、ベネズエラ外相が参加する最後のOAS総会になる、OASの離脱には、24ヶ月かかるが、既に、13ヶ月経過している、離脱する日は、祝日とすると述べた。

イ 5日、OAS総会において、ベネズエラに関する決議が、19ヶ国の賛成（反対4、棄権11）で採択された。同決議は、5月20日の大統領選挙は、国際的な基準を満たしておらず、合法性を欠いていると宣言し、ベネズエラ政府に対し、国会の権限の回復、人道支援の受入れ等を求めた。アレアサ外相は、内政不干渉の原則に反するとして、反発するとともに、ベネズエラをOASから追放することはできなかったとして、決議は失敗したと評価した。6日、野党連合MUDは、同決議を支持するコミュニケを発表した。

ウ 6日、アレアサ外相は、コーカー米上院外交委員会院長及びハंक・ジョンソン米下院議員と会談した。

(2) G7首脳会合コミュニケ

9日、G7シャルルボア首脳コミュニケが発出され、ベネズエラ情勢について、「ベネズエラにおける人権及び民主主義の基本原則の尊重の欠如並びに悪化する経済危機とその人道的影響を深く懸念する。」との言及がなされた。

(3) 対米

ア 26日、ペンス米副大統領は、ブラジルを訪問し、テメル大統領と会談した。会談後、同副大統領は、マドゥーロ政権が、民主主義を破壊し、国民への責務を放棄し続ける限り、米国は、ベネズエラへの制裁、困難に直面しているベネズエラ人への支援を継続していくと述べ、ベネズエラ避難民への追加支援（1,000万ドル）を発表した。27日、マイク・ペンス米副大統領は、ブラジルのマナウスを訪問し、ベネズエラ避難民の収容施設を視察した。

イ 27日～28日、ペンス米副大統領は、エクアドルを訪問し、モレノ大統領と会談した。両者は、ベネズエラにおける民主主義、人道・人権状況の悪化についての懸念を表明した。

(4) 対欧州

ア 7日、欧州委員会は、ベネズエラの危機に対処するため、ベネズエラ国内外向けに総額3,510万ユーロの人道支援等のパッケージを発表した。

イ 25日、EU外務理事会は、ロドリゲス副大統領、エル・アイサミ産業・国内生産大臣等ベネズエラ政府高官11名に対する追加制裁を発表した。ベネズエラ外務省は、

同制裁措置を拒絶するコミュニケを発出した。

(5) エセキボ領域問題

18日、ベネズエラ外務省は、エセキボ領域問題に関し、ガイアナ政府より、国際司法裁判所に提訴された司法プロセスに参加しない旨のコミュニケを発出した。

(6) その他

ア 17日、ベネズエラ外務省は、ニカラグアの野党勢力による暴力の行使を拒絶するコミュニケを発出した。

イ 18日、ベネズエラ外務省は、大阪北部地震の犠牲者に対し弔慰を表明するコミュニケを発出した。

ウ 20日、ベネズエラ外務省は、米国による国連人権理事会の離脱を非難するコミュニケを発出した。

エ 22日、ベネズエラ外務省は、国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）が公表したベネズエラの人権状況にかかる報告書を、断固拒絶するコミュニケを発出した。

オ 26日、アレアサ外相は、カリブ諸国への外遊を開始し、26日、ブラウン・アンティグア・バーブーダ首相、27日、ゴンザルベス・セントピセンテ及びグレナディーン諸島首相及びシャスネ・セントルシア首相とそれぞれ会談した。

カ 29日、ロドリゲス副大統領は、トルコを訪問し、エルドガン大統領と会談した。